

2018/1/31

うときゅういっきの漢字夜話（ことば夜話）

神さま（副題：神さまシステム）



「神」ではなく「神さま」がいいと思っています。

日本では、神さまです。八百万（やおよろず）の神さまです。

べつに八百万（はっぴゃくまん）いるわけではありません。

八百屋さんの八百（やお）で分かるように八百（やお）は「いろんなもの」が並んでいるという意味です。

万（よろず）はやはり {いろんなもの} とか「そこここに」とか「たくさん」の意味で、両方併せて考えると、どちらかという「たくさん」よりは、「いろんな」とか「種々雑多な」或は「千差万別の」という意味の方が強いような気がしています。

要するに「わいがや」。わいわいがやがや、なのです。お互いに「差」があるのです。個性があると言ってもいいかもしれません。

ところが、これが、神さまがたった一つで、「神」となると大変です。

世界で、或は宇宙で「たったひとつの」と言った以上は、二つ目が出てきては困るからです。ウソになるからです。

それで「この世で神はわしだけだ」という、その神は「いや、あいつは偽物で、わしこそが」という、二つ目の輩（やから）が出てこないように仕組んだり、万が一にも「そんな不敬なことをほざく」ふたつ目の輩が出てきたら、有無を言わず「ぶっ叩いたり」するわけです。こわい言い方をすると徹底的に「消しにかかる」のです。

だから神さまは、たった一つで身動きできないような状態よりは、いろんな神さまがいて「わいがや」の方が、とてもいいのだと思っています。

だって、神さまが一つで「神」だと、なんかちょっと独裁者みたいじゃないですか？

何でも言うこと聞かないといけないみたいじゃないですか？

それこそ、わしの言うことに背けば「地獄に落ちるぞ」って、完全な「脅迫、強要罪」みたいな気がしますし。

世の中、差があることが争いを生み出します。しかし、争いを避けるために「差をなくしすぎると」今度はどこに行っても似たような「金太郎あめ」君にばかり逢って、詰まらない気がします。

差があることは大変です。争いの基になります。

しかし、差があるからこそ、いろんなものがあり、許され、認められて、面白くもあるのです。

「差」は「面白い」と「大変だ」の間を行ったり来たりしているのです。

大変だけど面白い。

だから「神」より八百万の「神さま」の方が、自分は「いいシステム」だと思っている次第です。